



聖  
火

太陽は南に低くまはるやうになつても、晝は暖く、それが夕方になると遽かに冷え、夜は寒く、朝には霜、霜は解け、……かうして何日か過ぎると、まつたく灰色の冬になつた。

一日、朝からの雲が日暮れ頃には純粹の雪にかはつた。夜一夜降りとほして、翌る日もまた一日雪。

その日、摩耶子からの分厚な手紙が、浩三のところへ来てあつた。彼は一日の勞働を終つて蒲田に歸つてから、裏の家に預けてある君子を連れに行つた時、それをうけとつた。臺所で七輪を焚きつけながら、浩三は手紙の封を切つた。

「叔母ちゃんから？」

君子が肩にまつはりついた。

「さうだよ。」

「叔母ちゃんどこゐるの？」

「解らないよ、どこにゐるか。」

「あら、をかしい！ お手紙來てるのに、どこゐるか解らないの？」

「解らないんだよ、書いてないんだから。」

「書いてないの？ どうして書いてないんでしょ？」

「さあ、どうしてだかね、父ちゃんにも解らないや。」

君子と話しあひながらも、彼は、幾枚も書簡箋にこまかくペンで書きつらねた摩耶子の手紙を讀んで行つた。

親子ふたりきりの寂しい夕食をすまして、やがて眠氣の催して来た娘を蒲團にねかしつける  
と、彼はボクットから手紙を出して、もう一度はじめから読みなほした。  
摩耶子の手紙にはかうあつた。

(392)

浩三さま。

私が今これを書いてゐる時、そとでは雪が降つてゐます。ちやうど夜の八時です。あなたの  
おうちの周囲にも、おなじ雪は降つてゐます。これを書きながら私は、雪に降りこめられて  
るあなたのおうちを思ひ、またおうちのなかをも想像してゐます。君子ちやんと二人きりのあ  
なたのお姿を。

愛子さんも蘭子さんも、そちらにもうゐないことを私は存じてゐます。あの人達に會つたん  
ぢやありません。私はもうあの頃の人達とは、どなたともおめにかかりませんし、どなたもま  
た、私のゐる所を知つてゐらつしやるお方はございません。

私の居所を、私の一番好きなあなたにもお知らせしないことを、どうぞお許しく下さいまし。  
どこでこの手紙を書いたのかと云ふ疑問を多分あなたはお抱きでせうけれども、その疑問に解

決をおくだしにならうなどと、お骨折りは決してしてはくださらないやうに。

私のゐるところは、どこでもない、また、どこでもあると云つていいのです。私はどこに  
もゐません、けれども、どこにでもゐます。變な云ひかたですけれども、あなたにはお解りに  
なつて頂けると思ひます。どこにゐようと、私のたましひの糸は、絶えずあなたの方に結びつ  
いてゐるのですもの。

雪はしきりなしに降つてゐます。あなたの周囲にも私の周囲にも、おなじ雪に降りこめられ  
て、いつもより一層強くあなたが親しく近く私に感ぜられます。お別れの言葉ものこさずに、  
あれなりに姿をくりました私は、今すこしばかり後悔してゐます。

でも、なぜあの日、あなたはあんなに不機嫌になさつたの？ いいえ、なぜなんてお尋ねす  
るまでもない、私にはあなたの不機嫌なわけは、よく解つてゐましたの。それだからこそ、私  
はあのままお別れしたんです。

『兄貴は僕に用があつて来るのではない。摩耶子さんにだけ用があつて来るんだ。』と、あの  
時あなたがおつしやいましたね、どうしてあんなことおつしやつたのよ？ にくらしいひと！  
ことによると、あなたのおつしやる「兄貴」と私とが、あれなり一緒にでもゐるとお思ひぢ

(393)

やないでせうかしら？

二

摩耶子の手紙のつづき。

「兄貴」もきつと、あれつきりもう浩三さんとこへは行かないでせう？ ですからあなたは、その後のことをちつとも御存じないでせうと思ひます。でも、至極簡単なお話よ。あなたの豫言どほり、私の念願が成就されたと言ふだけの話。

あの晩森ヶ崎とかへ行く途中、私はきつぱりと、あの人の申出を拒絶してやりました。それなり私は、あの人を置き去りにして、……それからどこへ行つたか、今はどこにゐるか、何をしてゐるか、それはどうぞ、もう暫くきかすにおいてくださいまし。

なんて古い型の女だらうと、あなたはお思ひにならない？ モダン・ガールなどと云ふものからは遙かに遠い、舊式な舊式な、死滅したやうな觀念に囚はれた女、なんて因循姑息な、自由味のない性道德にとちこめられた女なんでせう！

でも仕方がない。これが本當の私なんですもの。

昔、羅馬にはヴェスタと云ふ神様があつて、その祭壇には永遠に消えないところの神聖な火が捧げられ、さうしてその火を絶やさないためには、ヴェスタの神に身をささげきつた何人かの處女が、日に夜に護りつづけるのだと云ふ話を、なくなられたお父さまにきかされたことがあります。お父さまが事務長で乗つてらした船で歐洲へ連れて行かれる途中のことです。お父さまは多分、……いいえ、多分どころではありません、私を處女と信じきつてゐらつたのです。私がある時もう處女でなかつたことなんか、どうしてお父さまはお思ひになりませう！

浩三さまー

私の我儘を許し、私の無理をいつもきいてくださつた浩三さま、少しばかりの感傷をどうぞお許し下さいまし。摩耶子は今、涙でこれを書いてゐますのよ。

お父さまがなぜ、ヴェスタの神を祭る永遠の聖火のことをお話なさつたのか、……ヴェスタと云ふのは家庭の神様ださうですが、……さうして、その神聖な火を、永遠に絶やさないために、夜に日をついで敬虔に護る處女達のことを、なぜお父さまが私にお話なさつたのか、その

時のお父さまの氣持は、あなたにも解つていただけますと思ひます。私にも勿論解りました。何ともない平氣な顔で、お話をうかがつてはりましたが、私の心はどんなに傷み、どんなに呪ひ、どんなに悲しかつたことでせう！

スエズの運河を過ぎ、地中海にはひり、だんだん伊太利が近くなる頃のことでした。或夜のこと、

「火山！」

「ストロンボリーが見える！」

と叫ぶやうな聲が、プロムナード・デツキの方から聞えて來るのです。私もすぐに、デツキへ駆けあがりました。

船の向つて行く方、すこし右舷よりに、ずつと遠い、暗い海の上に、五分か七分の間をおいて火柱があがるのを、どんなに神秘的な氣持で眺めたことでせう！船が進むにつれて、その火柱は一層ふとく、一層高く、……しまひには、海の中に暗く聳える火山を右舷にすれすれなくらるに見たのですが、やがてその火山はまただんだんとうしろに残されてしまひました。その時ですの、お父さまが私にお話なさつたのは。

三

摩耶子の手紙のつづき。

ストロンボリーの火柱を見て、思ひだされたのでもありませんし、さうでないにしても、お父さまは船乗りなのに、いいえ、かへつて船乗りでしたからこそ、さうなのかも知れません、東洋西洋、さまざまの國の宗教上のことは大概御存じで、機會さへあれば何かと私にお話してくださいました。ですから、ヴェスタ神のことも、いづれ一度はお話なさるつもりではあつたのでせう。

その夜私はケビンのベッドで、どんなにつらひ思ひで泣いたか知れませんが、くどくどしく申し上げませんが、あなたは多分お察しくださるだらうと思ひます。

でも、私はまだ十六の少女でした。殊には見知らぬ外國への初旅ですもの、一つの悲しみに百の喜び、……悲しみもやがては眠つてしまはうと云ふもの。

その悲しみが、思はぬ機會から眼をさまして、私を苦しめることになつたいきさつは、  
三

さん、あなたは御存じですわねえ？ 苦しみは苦しみを生み、それも私ばかりでなく、外の方達までも禍のなかに導きいれて、……先日、勉さんの命日に、雨降りの日でした、人眼にかからないやう、わざと日暮をえらんで、青山の墓地に参つて来たのよ、きつとお母さまがお参りになつたのでせう、まだ真新しい白木の墓標、一對の花立、それには白い菊が雨に濡れて、もの悲しい匂ひをただよはせてゐました。

地にひざまづき、手をあはせ、心に勉さんの名を呼びながらちつと眼をつぶつてうなだれると、菊の香はさまざまな聯想をつぎつぎにさそひ起し、眼にはおのづと涙が溢れ、……咽びいりながら、自分の罪のふかさをどんなに痛く感じたこととせう！

浩三さま！

私は今、謙虚な心で、皆さまの前にあやまりたい氣持で一杯なの。秀夫さまにさへ、あやまりたいと思ふくらゐ。でも、それなのに、どうして私には悔いの心が湧き起らないのでせう？ あやまると云ふならば、何かしら罪を悔いなければならぬのでせうに、それとは反對に、私がかへつて、自分のして来たことに強い誇りを感じてゐるとは、……これは矛盾でせうか？ 矛盾でもいいの。矛盾なら矛盾で、その矛盾の中に生きて行くわ。

強い誇りとは云つても、今の新しい思想の光の前では、まるで照らさればえのしない、古ぼけた、馬鹿けたものかも知れせんわ。それでもいいの。私は私ですもの。  
ヴェスタ神の祭壇に、永遠の聖火を護る敬虔な處女、私は自分をその處女にたとへたりして、獨り自慢の誇りを感じてゐるのではありません。あれはただの話ですわ。それに私は、處女でもないのに。

恥づかしけもなく、こんなことを書く摩耶子を、どうぞもう一度お許しくださいね。  
今夜この手紙を書きながら、あなたが明日これを読む時のことを、私は思ひつづけてゐるのよ。若しあなたが工場へ行つてゐらつしやるのなら、お歸りになつてから、君子ちゃんと寂しい夕餐をとりながらでもお読みになるか、……明日の夜のその時刻には、私もあなたのことを思ひめぐらすことにしますわ。ですからね、浩三さんがこれをお読みになつてゐる時、摩耶子もどこかにゐて浩三さんの姿を思ひ描き、いろいろと考へてゐることを忘れないで頂戴ね！  
それではこれで左様ならにいたしませう。  
私は生きて行きますわ。

左様なら！

聖火(完)

有共者行發者著は權作著書本

昭和三年四月二十日  
昭和二年三月二十日  
昭和三年三月二十日  
印刷發行

定價 金貳圓貳拾錢

(聖火奥付)

製複許不



著者	岡田三郎
發行者	野間清治
印刷者	堀江關武
印刷所	東京市小石川區諏訪町五十六番地 常磐印刷所

發行所

東京市本郷區駒込  
坂下町四十八番地

電話(二二五、二二六、二二七)  
小石川(三五九六、五九八一、七〇八八)  
大日本雄辯會  
振替口座東京三九三〇

三岡 郎田 著	紅佐 藤 著	岩沖 三野 郎著	紅佐 藤 著	紅佐 藤 著	紅佐 藤 著	紅佐 藤 著	紅佐 藤 著
聖 火	町 の 人 々	悲 み の 極 み	第 一 步	紅 椿	春 の 流	幸 福 物 語	樂 園 の 扉
戀！戀！中心として捲起る熱烈にして深刻な極めた戀愛事件を描き盡す。	若き小學教師を巡つて渦巻く人生の寂しさを下積の著者快心の長篇小説巧みに描いた。	才貌兼備の少壯教諭を取巻く美しい二人の女性との戀愛葛藤。	母亡き後の父を誘惑する淫蕩の女を刺殺した少年！命を賭して之を保護する青年教師、波瀾又波瀾。	紅の美女お照半生の戀愛記録！華族の若様と涙潜々たる戀の悲劇。	令嬢由美子との清く熱烈な戀を描く。富豪の艶にして然も哀婉。	孤兒となつて奈良から上京した清純な處女の運命は如何の誘惑は襲つた。果して彼女を福子。幾多の誘惑は襲つた。果して彼女を福子。幾多の誘惑は襲つた。果して彼女を福子。	叩かしめる。熱火の如き戀に飽くなき守を錢奴を配して幾變轉、近來の快作。
美函四 六 裝入判	美函四 六 裝入判	美函四 六 裝入判	美函四 六 裝入判	美函四 六 裝入判	美函四 六 裝入判	美函四 六 裝入判	美函四 六 裝入判
二、二〇	二、二〇	二、二〇	二、二〇	二、二〇	二、二〇	二、二〇	二、二〇

幹長 彦田 著	幹長 彦田 著	武加 藤 著	武加 藤 著	武中 羅夫 村著	武中 羅夫 村著	武中 羅夫 村著	武中 羅夫 村著
波 の う へ	沈 む 夕 陽	愛 染 草	審 判	女 王	處 女	夜 の 潮	女 人 群 像
中心にした近來稀有の哀憐悲戀の小説。	描く。魔の手は伸ぶ彼女等は遂に如何に！	途に八千代は心に或る青年を思ひながら。本書は數奇な極めた戀愛を描く。	避りに合つたか！一大運命悲劇。その母に暴力を以て汚された處女の、呪はれたる問題の小説、著者快心の作。	富豪の令嬢と男性的氣魄と意氣に燃ゆる快青年との戀を中心として描かれたる大問題の小説。	『人生の花の下』に安らかに眠つた處女の生活を描き、處女神聖の讃歌を捧げた靈感的傑作にして女性の新經典。	某上流家庭に起つた戀愛事件を中心に、肉慾生活の中から次第に眼覚め行く靈性の曙を巧みに描く。	美しく心清き一女性の數奇な運命を叙し、職業婦人に纏る世相の裏面を剔抉し、女性のために光明を與ふる一大力作。
美函四 六 裝入判	美函四 六 裝入判	美函四 六 裝入判	美函四 六 裝入判	美函四 六 裝入判	美函四 六 裝入判	美函四 六 裝入判	美函四 六 裝入判
二、三〇	二、二〇	二、二〇	二、二〇	二、二〇	二、二〇	二、二〇	二、二〇

美本 禪田 著	孝中 也村 著	孝中 也村 著	琴福 月田 著	悦下 夫村 著	長小 三泉 著	美本 禪田 著	美本 禪田 著
血染の伽羅	美文集 志ら菊	源九郎義經	靜御前	悲願千人斬	だ、つ兒羅漢	亂れ焼及	お洒落狂女
打ち續く太平に世を擧げて文弱に傾く一 大歴史物語！	胸、一度琴線の高鳴る時、其の眞情は詩 となり和歌となり韻文となる。	天才兒たる彼の波瀾窮まりなき生涯を叙 構雄大、眞に不朽の名著。	源平盛衰の詩的時代を背景に美の化身た る靜と武の権化たる義經。この二人の戀 を中心を描き盡せる歴史小説。	戦國の時代相を背景に、美濃國齋藤氏に て如何に！靈感の大傑作！その眞相や果し	大納言忠長卿の遺子長七郎事羅漢七郎の 驚天動地の活躍。見よ！遂に南蠻に渡 つてその覇業を全うせんとする。	風俗爛爛せる享保後の大江戸を背景とし き美男を配した姉妹の戀を主題に、女子の如	爛熟せる江戸文化の桃源に咲き誇れる美 しき女性を中心を描き出したる前代未聞 の大歴史小説。
函四六 入判	美三六 装判	美菊判 函入	美函四六 装入判	美函四六 装入判	布函四六 装入判	美四各 六装判編	美四各 六装判編
一、八〇〇	一、二〇〇	二、一八〇	二、一五〇	二、一四〇	二、一五〇	後編 三、〇〇〇 前編 三、〇〇〇	後編 三、一八〇 中編 三、一八〇 前編 三、一八〇

不小 酒井 木著	曙前 山田 著	曙前 山田 著	曙前 山田 著	浪村 六上 著	浪村 六上 著	英吉 治川 著	英吉 治川 著
稀有の犯罪	幕末 劍俠 大望	幕末 史譚 糸の亂	復讐	妙法院勘八	浪六名作選集	劍難女難	坂東俠客陣
探偵小説界の權威たる博士の傑作を蒐め たるもの、稀有の犯罪、跳出する死人、紅 蜘蛛の怪異、胃の中の小刀外十數篇。	徳川の末葉白蓮院と呼ぶ若き美貌の後室 が燃ゆるやうな戀を中心を描かれたる一 大復讐物語。	妖艶なる毒婦、可憐なる節婦を配し血の 雨、涙の泉。戀と義と幕末に材をとれる 一大情史。	梵天丸の水主の長次は不圖した機會に頼 まれた密書を加茂の宮家に齎した。涙と 血に彩られた巖窟王以上の傑作。	快腕の妙法院勘八、六尺の反身に思ふ存分 此の人を廻る戀の情火。	浪六先生の無慮數千篇の作品の中から選 びに選び抜いて眞に浪六式を發揮した傑 作中の傑作十有八篇を収む。	劍士も休む間もなく取巻く愛慾の情火、 數難と女難を一身に引受けた美男新九郎 の數奇なる運命は如何！	劍道眞庭流の宗家に傳はる秘文を中心 に捲き起されたる驚天動地の大渦巻！幾多 の劍士俠客入亂れて幾變轉。
美函四六 装入判	美函四六 布入判	美函四六 装入判	美函四六 装入判	美函四六 装入判	美函四六 装入判	美函四六 装入判	美函四六 装入判
二、一〇〇	二、一〇〇	二、一〇〇	二、一〇〇	二、一〇〇	二、一〇〇	二、一五〇	二、一四〇



愛安山藝著	愛安山藝著	鞍大馬瀧著	鞍大馬瀧著	撫澤松田著	利北男著	大日本雄辯會編	大日本雄辯會編
家庭百話	通俗教育道話	三井王國	三菱王國	大正婦人立志傳	歐米大人物立志傳	新人物立志傳	大正新立志傳
論て家庭改良の必書。一般家庭の必書。	色々の面白く人の行くべき道。守るべき訓を説いた肩のこらぬ修養書。	著者は材料を蒐むること幾星霜、幾多の事件と巨人的大活動の過去及現在を描く。	財王岩崎太郎の大活躍！松源樓上黒田合隆との格闘、京都祇園の名妓お雄の奪合ひ等、全篇彼の面目躍如！	現代我國婦人界の一流名家が逆境を突破の榮冠を得るに至れる奮闘の血涙史！	現代歐米の大實業家、發明家等の苦心推奨された名著である。	新人物十数名の刻苦精勵の成功傳！成功を望む者には親切丁寧なる好手引。	現代各方面に活躍しつゝある二十名家が今日の赫々たる名聲を得るに至るまでの惡戰苦闘の血涙史である。
洋四六裝	ク四六装	洋四六装	洋四六装	美四六装	美四六装	美四六装	美四六装
、八〇〇	、一、五〇〇	、一、〇〇〇	、一、七〇〇	、一、八〇〇	、一、八〇〇	、一、五〇〇	、一、三〇〇

し宮尾著	大日本雄辯會編	桃大郎著	片岡著	水さる著	武加藤著	修南太郎著	水之助著
漫畫物語	講演資料	曉の歌	薔薇の戯れ	詩物語集	君ふ知るや南の國	露草の花	涙の握手
圓子串助の弟輕助が雁の脊に乗つての出て巨人を驚かす等痛快無比の色刷繪本。	講演に演説に座談に、巧みに引用された逸話は對者無制限の感興を與へ説話をしたて益々生氣あらしめる本書は無上の至寶	新吉少年の母に孝養を盡し、日夜勉學にあらず。健けさ、純情實に鬼神も泣かすであらう。青少年少女の必讀書。	美しい友情、悲しい母子の物語、けなげの少女の話しなど何とも云へぬ良い感じの物語。新しいそして美しい物語集。	妙なる音楽を聴くやうな詩物語!! その純美な境地には何人も恍惚として我を忘れるであらう。絶好の作。	音楽の天才より子に上京、作曲家内山氏を訪れた。然るに、悲しげなく彼は拒絶した。何故!そこには悲しい秘密がある。	時めく大政治家の子と生れ乍ら淋しい山里に育つ。百合の如く美しい一少女が、遂に天晴成功する物語。	一年の王子と生れ乍ら花賣に零落した少年が、勇壯優美の物語。
色函四六装	携帶至便	美函四六装	美函四六装	美函四六装	美函四六装	美函四六装	美函四六装
、一、三〇〇	、〇、八〇〇	、一、三〇〇	、一、五〇〇	、一、〇〇〇	、一、八〇〇	、一、八〇〇	、一、四〇〇

大日本雄辯會編	加藤咄著	大日本雄辯會編	大日本雄辯會編	大日本雄辯會編	大日本雄辯會編	大日本雄辯會編	大日本雄辯會編	大日本雄辯會編	大日本雄辯會編	大日本雄辯會編	大日本雄辯會編	大日本雄辯會編	大日本雄辯會編	大日本雄辯會編	大日本雄辯會編	大日本雄辯會編	大日本雄辯會編	大日本雄辯會編	大日本雄辯會編	大日本雄辯會編			
模範的式辯 換抄五分間演說集	雄辯の新研究	道重信教師大講演集	泰西雄辯集	第二青年雄辯集	青年雄辯集	犬養木堂氏大演說集	新井石禪師大講演集	加藤咄堂氏大講演集	高島米峰氏大演說集	谷本富氏大講演集	濱口雄幸氏大演說集	賀川豊彦氏大講演集	鶴見祐輔氏大講演集	尾崎行雄氏大演說集	永井柳太郎氏大演說集								
戦する所百數十篇は悉く現代の諸名士苦 心の腹案に成り、實際に試みて會衆を感 激せしめた名演說のみ。萬人必携の好著。	從來の形式偏重の雄辯術を一變して人格 の接觸と聽衆心理の考察に重きを於ける 一大名論である。	先生の尊き忍苦の體験と、高邁なる識見 とより溢れ生れし大教を輯めたもの。篇々慈 愛に溢れ法悦の涙を催さしむ。	古今の偉人傑士が一世一代の血と涙と熱 起の大演說のみにして、一讀何人も感奮興 起思はず拳を握らざるに居られまい。	本書は右書と共に若き血潮に燃え立つ士 の熱辯快辯を蒐めたるもの。我國思想界、 辯論界の精華！	鶴見、藤田、大井、森戸氏等、現代各方 面に活躍せる新進諸家の學生時代に於け る處女演說出世演說を蒐む。	先生の演說は終始一貫眞摯熱誠にして一 點浮華の痕を留めず、本書は幾百千の演 說中より冠絶せるもののみを蒐む。	先生は現代禪門第一流の人、本書は燃ゆ れる熱誠を傾けたる大講演を輯む。言々是 れ處世の要訣、生活の妙諦。	先生は演壇に立つこと實に四十年本書は 數百の名講演中より特に不朽の大獅子吼 を撰び輯めたものである。	佛教學者として、社會教育家として先生 の名は今や天下に普及し、教育に政治に明 快深刻なる一大痛棒を與ふ。	先生独自の境地より新文化主義を鼓吹 せし、諸問題を論斷して滿堂の聽衆を熱狂 せしめたる大雄辯の大家録。	聴け！巨人の大熱辯、見よ大論策！歴 代内閣に肉薄せる熱火の辯、或は大蔵大 臣としての名演說！	現代人の精神的墮落を救ふ或は窮民勞働 家が魂を火にして絶叫せる憂國の獅子吼	先生は其名海外にも鳴る思想家にして、 混沌たる思想界を輝す一大炬火にして、	先生の熱辯を揮ふや、時に帝國議會の解 散、内閣の總辭職を敢行せしむ。見よ！ 憲政の神、勇堂先生一代の大獅子吼。	聴け、一世を震撼せる大雄辯！辯論界 者に直面せしむる不朽の演說集。辯論界								
三六列	四六列	四六列	三六列	三六列	三六列	四六列	四六列	四六列	四六列	四六列	四六列	四六列	四六列	四六列	四六列	四六列	四六列	四六列	四六列	四六列	四六列		
一、八〇 、〇八	一、八〇 、〇八	一、八〇 、〇〇	二、〇〇 、〇八	二、〇〇 、〇八	二、〇〇 、〇八	二、〇〇 、〇〇	二、〇〇 、〇〇	二、〇〇 、〇〇	二、〇〇 、〇〇	二、〇〇 、〇〇	二、〇〇 、〇〇	二、〇〇 、〇〇	二、〇〇 、〇〇	二、〇〇 、〇〇	二、〇〇 、〇〇	二、〇〇 、〇〇	二、〇〇 、〇〇	二、〇〇 、〇〇	二、〇〇 、〇〇	二、〇〇 、〇〇	二、〇〇 、〇〇	二、〇〇 、〇〇	

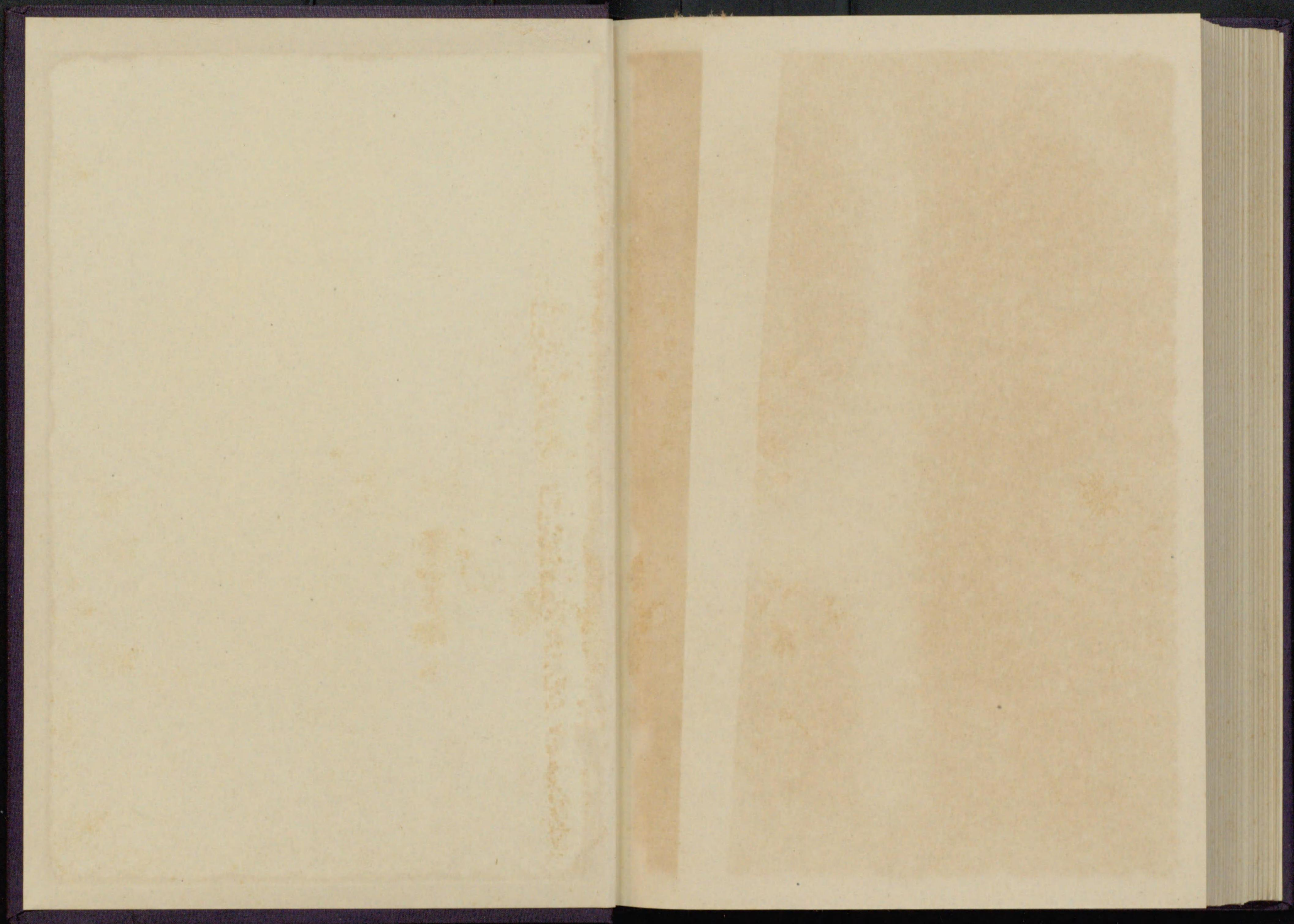
白北 秋原 編	白北 秋原 編	花田 袋山 著	祐鶴 輔見 著	祐鶴 輔見 著	祐鶴 輔見 著	四日 下太 部著 理學 博士	四日 下太 部著 理學 博士
日本民謠作家集	現代民謠選集	花袋行脚	南洋遊記	壇上紙上街上的人	思想・山水・人物	異國行脚	二人行脚
現代一流の文豪詩人五十氏が世上に發表せざりし珠玉の名篇揃ひ。實に萬世に傳ふべき民謠の大詞華集。	現代日本に於ける各方面の人士の作幾千篇の中より白秋氏の嚴選せる一大寶玉集である。	史蹟名勝に富める京都奈良を中心として近畿四國中國九州等に至るまで杖を運びてものせる旅行記。類書中隨一の名著。	天下の寶庫、世界の一大樂園たる南洋の風物を探り、眞摯なる達観と鬱勃たる意氣とを披歴せるが即ち本書。	日本支那、歐洲、亞米利加に跨り政界、文壇、映畫界、事業界に互つて描出す、見よ！現代人修養の一大金字塔。	著者が親しく歐米の大人物を歴訪し、又其の國の人情風俗及思想に接し、明敏なる觀察眼を以てものせる隨筆集。	豐富なる趣味と明晰なる頭腦とを有する著者が親しく歐米の大人物を歴訪し、又其の國の人情風俗及思想に接し、明敏なる觀察眼を以てものせる隨筆集。	世界各國を遍歴し異國情調の數々、奇習、珍聞などの根源を解し、自然の神祕を開き、科學の謎を解く。
入布裝	入布裝	入布裝	入布裝	入布裝	入布裝	入布裝	入布裝
二、五〇 、一四	二、〇〇 、一〇	一、三〇 、一〇	六、〇〇 、一八	二、七〇 、一四	二、五〇 、一二	二、八〇 、一四	三、五〇 、一四

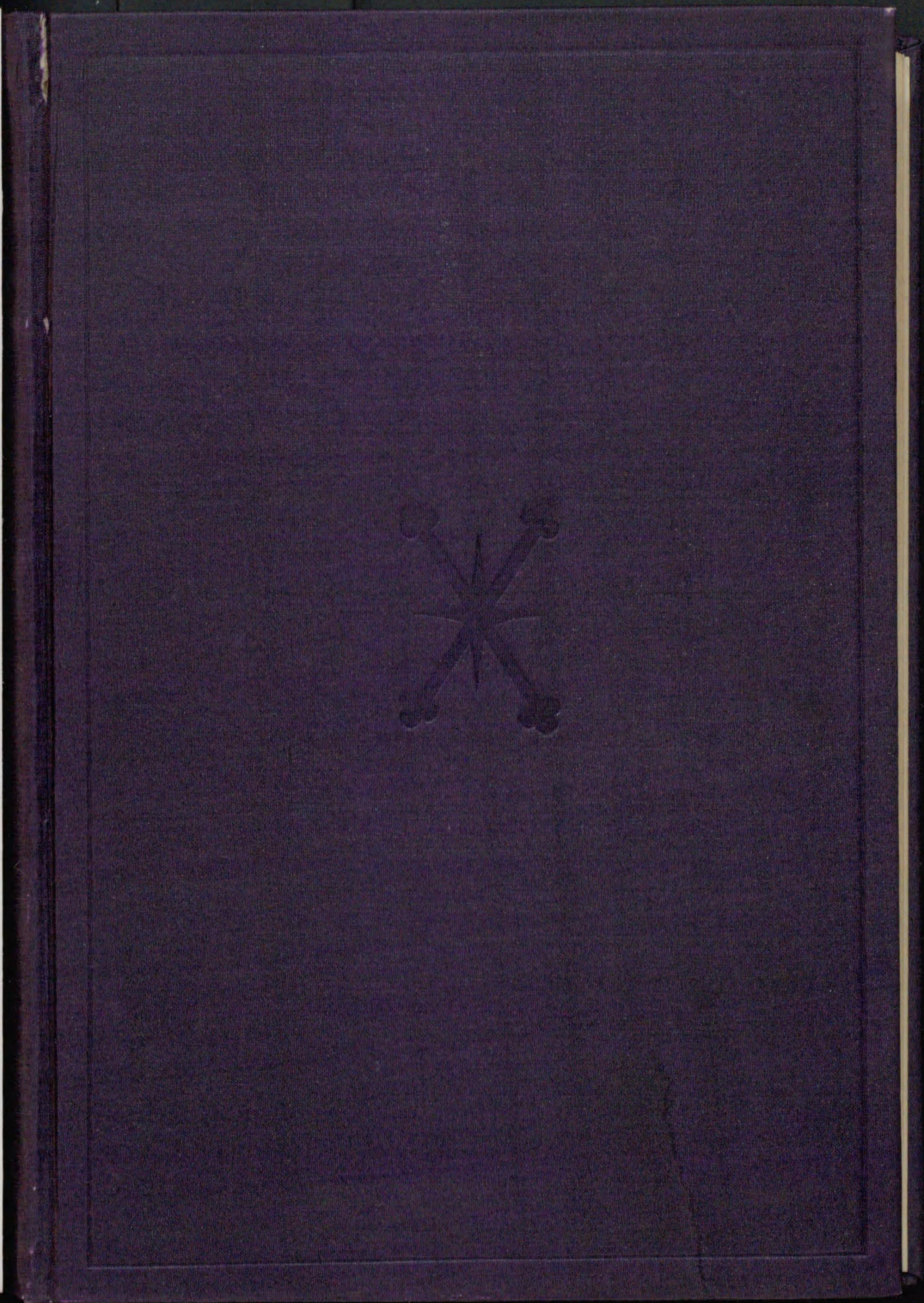
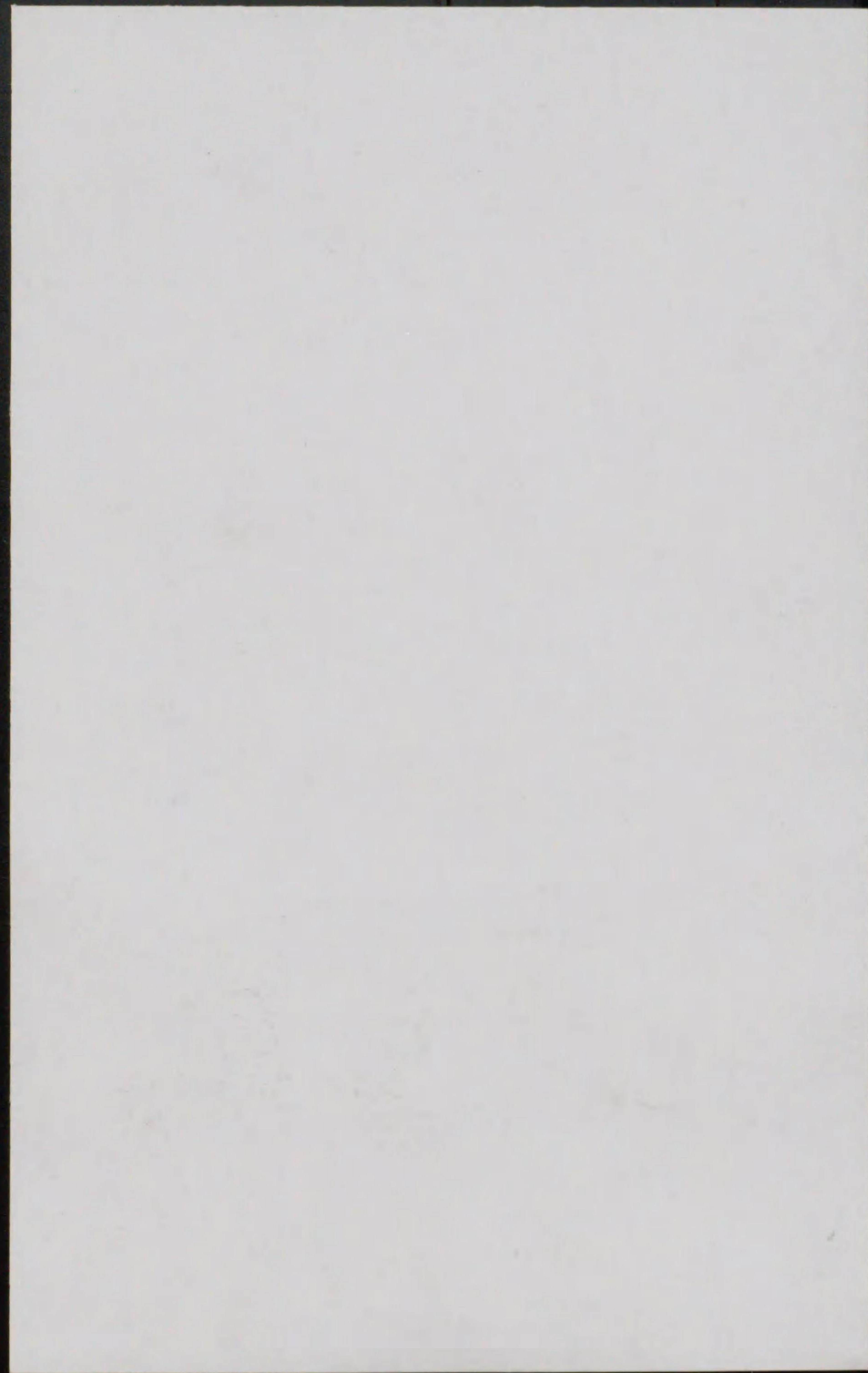
大日本 雄辯會 編	谷文 協著	近藤 雨編	大日本 雄辯會 編	米高 島著	祐鶴 輔見 著	祐鶴 輔見 著	祐鶴 輔見 著
テーブル・スピーチ	川柳うき世さまづく	社會萬般番附大集	明治大帝 附明治美談	思ふまゝ	中道を歩む心	現代日本論	北米遊說記
各方面に於ける有らゆる場合の卓上演說を必携の寶典。	素文先生獨特の川柳漫畫千五百有餘、風刺あり諷刺あり、ヒーンと頭心を刺す深刻な世間味は一觀現世の苦を忘れさせる。	政治、軍事、商事、運動、社交——社會各方面に於ける有らゆる場合の卓上演說を必携の寶典。	大帝御近奉仕の顯官名士、大奥女官等御の御英姿さし御高徳を奉頌せるもの。大帝の大聖典！	痛快なる筆鋒を以て、社會問題、婦人間、悉く是れ世の大文字。	先生が唱導する「新自由主義」を闡明せざる大書文！日本は本書によつて更に國民の増すであらうとまで稱せらるる、國民必讀の名著。	先生が唱導する「新自由主義」を闡明せざる大書文！日本は本書によつて更に國民の増すであらうとまで稱せらるる、國民必讀の名著。	先生が唱導する「新自由主義」を闡明せざる大書文！日本は本書によつて更に國民の増すであらうとまで稱せらるる、國民必讀の名著。
洋布裝	入布裝	入布裝	入布裝	入布裝	入布裝	入布裝	入布裝
一、〇〇 、〇六	二、三〇 、一〇	三、〇〇 、一四	五、〇〇 、二四	二、三〇 、一二	二、五〇 、一四	一、六〇 、〇八	二、五〇 、一四

子爵 新藤平著	子爵 後藤平著	法學博士 上杉吉著	在米 保松二枝著	鳴弦樓 主人著	成 篤田著	フォード原著 三加藤譯	安田 興四郎著	文學博士 鹽谷溫著	農・理學博士 松村年著	其日庵 杉山丸著	其日庵 茂山丸著	代議士 林田著	代議士 林田著	久石馬 獨石馬著	代議士 林田著	代議士 林田著	
政治の倫理化	日本膨脹論	日米衝突 の必至と 國民の覺悟	米國排日の實相	名人 達人 決死の大試合	縱横 漫談 陸海軍腕くらべ	今日及明日	株式市場の表裏	支那文學概論講話	煩悶と自由	進化と思想	百魔續篇	明治 大正 政界側面史	政界縱横記	日本政黨史			
日本帝國の現狀に滿眼の熱涙を注ぎ、更 吼！國民必讀の名著である。巨人の大獅子	生物學的並に人文的見地を根據とし、 と世界主義を提唱し、民族主義勃興の起因 と自覺を叙述し、日本膨脹を論ず。興の起	日米衝突の真相！言々人の肺腑を抉る。 前古未嘗有の屈辱！日本征服の野心と其 の真相悉く本書に喝破さる。	著者は親しく米國に渡り、虐げられつゝ、 究し、帝國の危機を警告す。日の真相を探	劍道、柔道、薙刀、野球、相撲、唐手、 將棋、ホート等各種。各方面の名人達人の 神技！血湧き肉躍る。	陸海軍の事情を表裏内外から縱横に率直 に解剖し、國民的軍事書。世界の真相を知る に無比の國民的軍事書。	フォード自動車會社が敢然として勞銀主 義を採用し、熾烈なる奉仕の精神によつて 世界的大發展を遂げたる自叙傳。	著者は稀世の財界通として新界の權威 者。市場の表裏、取引の實際を率直に詳細 に説く。財界活躍の活指針。	支那四千年の文學全般に亘りて概論し、 國民文學の精華たる元明以降の戯曲小説 に就いて詳論す。支那文學研究の權威書。	其説く所縱横の諷諭、辛辣なる筆鋒を以 て時弊の中核を抉り、文化問題に言及す。 一大豫言にして近代人必讀の名著。	世界文物の進化變遷の招徠を述べ、思想 と進化の原則を闡明し平易に説く。眞に 人生の光明を指示すべき羅針盤である。	著者は舌を以ては當代の蘇秦張儀たり筆 章を採つては萬人を踴躍感動せしむる名文 章家。本書は先生苦心の大傑作。	前書と同じく波瀾に波瀾を重ねたる明治 大正年代の背景として、幾多の俊英偉丈 夫熱血漢の眞面目を描く。	功臣大人物と云はれる人の大活躍大偉業 の真相や、藩閥財閥の葛藤の裏面側 面が實に面白く書いてある。	大隈、伊藤、山縣の諸元老より現代政界の 巨頭を一々痛快に評し、縱横の筆と多趣 味の題材愈々感興深し。	政黨の消長、政局の變遷、政治家の進退 等その狀況彷彿として眼。前に躍る。政 界通たる著者の不朽の名著。		
四六判 パンフレット	菊半裁 洋裝	四六判 洋裝	四六判 洋裝	四六判 クローリス	四六判 クローリス	四六判 函入	四六判 函入	菊判函入 クローリス	菊判函入 洋裝	四六判函 入布裝	四六判函 入洋裝	四六判函 入布裝	四六判函 入美裝	四六判函 入布裝			
一〇、〇四	〇、八〇	〇、八〇	一、五〇	一、五〇	一、八〇	二、二〇	一、八〇	五、〇〇	二、八〇	三、〇〇	二、七〇	二、七〇	二、二〇	二、八〇			

佐々木邦著	佐々木邦著	佐々木邦著	佐々木邦著	佐々木邦著	佐々木邦著	佐々木邦著
世間相	人間相	主權妻權	親鳥子鳥	へぼ胡瓜	どぜう地獄	人の一生
ユーモア文學の權威者たる佐々木邦先生が描いたもの、挿繪二十數葉入。其快筆	女性禮讃の時代精神を一人前以上に持ち、愛合の内情話等を描く。美人國寶論や未婚	敏感な主人公として其の家庭の和氣霽	源太郎を主として其の家庭の和氣霽	先生殺しの特全篇をいづつて名文。配するに	天下の一品の漫畫小説。著者牛生の情熱大膽が如き告白せるもの。	三百有餘の名漫畫に配する奇想天外の名面白きこと天下無比。男によく女によし
四六	四六	四六	四六	四六	四六	四六
入裝列	入裝列	入裝列	入裝列	入裝列	入裝列	入裝列
二、三〇〇	二、三〇〇	二、三〇〇	二、三〇〇	二、三〇〇	二、三〇〇	二、三〇〇

天海地



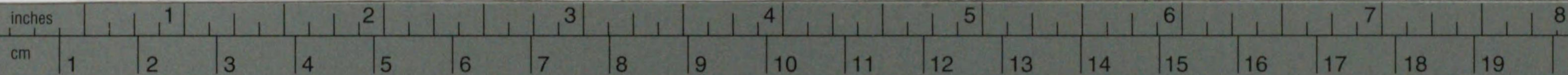


# Kodak Gray Scale



© Kodak, 2007 TM: Kodak

**A** 1 2 3 4 5 6 **M** 8 9 10 11 12 13 14 15 **B** 17 18 19



# Kodak Color Control Patches

© Kodak, 2007 TM: Kodak

Blue Cyan Green Yellow Red Magenta White 3/Color Black

